

Version 3.5

キリストの弟子 として歩む10ス テッ

キリストの弟子とし て歩む10のステッ プ

by

ジェリー & ナンシー リード
Jerry and Nancy Reed

by

ジェリー & ナンシー リード
Jerry and Nancy Reed

訳者： 杉崎 佐紀子

キリストの弟子として歩む10ステップ 3.5バージョン

Covenant Resource Center
3200 W. Foster Ave.
Chicago, IL 60625

Tel: 1-800-338-4332

ホームページ: <http://www.discipleship.info>

©2002 by Jerold and Nancy Reed.
本書は、自由に複写、複製して 各自の信仰形成に

序文	1
まえがき	4
10ステップ	
ステップ1	救いの計画と4つの確信 12
ステップ2	キリストの弟子として 13
ステップ3	車輪のイラスト(デボーション) 16
ステップ4	主なるキリスト—キリスト中心 18
ステップ5	聖霊 21
ステップ6	御言葉 24
ステップ7	祈り 26
ステップ8	証し 29
ステップ9	交わり 31
ステップ10	キリストに従う 34
付録	
互いに学びあうために	37
補足ステップ	
聖書と神と人間	40
橋のイラスト	43
プログレス・シート(進行記録)*	45
祈りのリスト*	48
クリスチャンの人生管理	49
暗唱聖句一覧表	51
新・項目別暗唱聖句(ナビゲーターより抜粋)	52
聖書研究(聖研)の手引き	53
聖研を効果的に進めるためのノート*	55

* 印は各自必要に応じて自由にコピーしてご利用

ちょっと待って！この先は、‘はじめに’の頁を読み終えてからお読み下さい。というのは、効果的な弟子訓練をするために、‘はじめに’に書いた‘知識偏重のワナ’についてよく注意して頂きたいからです。

□ ‘はじめに’を読み終えたら、この箇所にチェックを入れましょう。

素晴らしい！‘はじめに’を読んでくれてどうもありがとう。さて、弟子訓練に取り組むにあたって、考えておいた方が良いポイントが幾つかあります。

1) ‘はじめに’の後に続く‘互いに学び合うために’の頁をよくお読みください。弟子訓練に関する基本的な問題やそれに関する答えがそこに書かれてあります。

□ ‘互いに学び合うために’を読み終えたら、この箇所にチェックを入れましょう。

2) 次に25ページを開いて下さい。この‘聖書と神と人間’から、**キリストの弟子として歩む10ステップ**の弟子訓練を始めることもできます。内容を見て頂ければ、この補足ステップは神様とは、どんな方か？聖書とは何か？そして私達が神様のことを知る者となるためにイエス様を通して神様が成して下さったことに、ついて述べているということにお気づきになるでしょう。それでは28ページを開いて下さい。この‘橋のイラスト’は、他の人をイエス様との個人的な関係に導くときに助けとなる補足ステップです。

□ 25ページから29ページまで読み終えたら、この箇所にチェックを入れましょう。

3) 今度は、28～30ページの**プログレス・シート(進行記録)**を見て下さい。メンバーの一人一人に2ページずつ配れるようにコピーしましょう。それから、最初の空欄にあなたのメンバー(弟子達)の名前を書き入れて下さい。毎回、あなたのグループの会を閉じる時にその日の進み具合を記録するようにしましょう：どのポイントまで進み、次回補足すべきポイントはどこであるか明確にしておきましょう。(ステップ以外の重要な話題に取り組んだために全てのポイントを網羅できない日もあるからです。) 次回の日時とどのポイントから始めるかも記録しておきましょう。

□ プロダクト・シートのコピーの用意ができれば、この箇所にチェックを入れましょう。

4) 問題を問うことは大切なことであると覚えておいて下さい。**問題は私達の友なのです。**あなたが弟子訓練をする時に問題問うていきましょう。問題によってメンバー同士が会話をし、互いの洞察と理解を分かち合うことができ、問題によってメンバー同士が個々の問題として問い、その結果、あなた方の会話が思いもしなかった重要な方向へと展開することになるからです。

5) あなたのグループをスタートさせる時にどの位の期間会うか(何回集まるか)についてメンバーの了承を得ておきましょう。最初は、二、三回ぐらい集まる提案をし、その後、あなたもメンバーも同意できるなら回数を増やすというのも良い方法です。試めしにやってみる場合、例えば、‘ステップ1... 1ページ’という一行を抜いてステップ1のコピーをし、メンバーに配りましょう。この様にコピーをとれば、ステップ1を単独としたステップとして扱うことができます。そうすれば、後に続くステップのことをメンバーにほのめかさずに済むので、もし、うまくいかないと判断した場合、早めに切り上げることができます。途中でだれた関係にならないように気をつけましょう。あなたの成長と共にメンバーの一人一人も少しずつ前進しているのだと実感できるように励ましてあげて下さい。会を閉じるときは、終わったことがメンバーに解かるようにきちんと閉じましょう。いつ終わったか解からないような閉じ方は避けて下さい。

6) 最後に、あなたが弟子訓練を始める前に弟子訓練について基本的なことをおおまかに考えておきましょう：あなたは、今、どんな目的で又はどんな期待を持って弟子訓練をしようとしていますか？幾通りかの答えが考えられます。

可能な目的として：

- ・クリスチャンとして生きるとは何かを基本的に理解する、
 - ・新しくクリスチャンになった人達の指導する
 - ・若者の中からリーダーを育成する
 - ・小グループの指導者を育てる
 - ・教会開拓の準備をする
 - ・牧会的な指導をする人々を訓練する
 - ・教会学校で教える奉仕者をととのえる
 - ・ワーシップ・リーダーなどの礼拝を導く者をととのえる
- ... などがあります。

中でも最も重要な目的は、次の世代の弟子を育成することです。あなたの想像力を使って弟子訓練の目的についてもっと深く、様々に考えてみましょう。もう一度、聞きますが、今回、あなたが弟子訓練をする目的は何ですか？

以下の文の空欄をうめながら、あなたの目的を書いてみましょう。

今回の私の目的は、[一人～三人の名前を書いてください]

_____， _____

さん達と:[あなたの目的を以下に書いて下さい]

□ あなたの目的が書き込めたらチェックを入れて下さい。

あなたが共に成長しようと願う人々を誘う時に体験する緊張感は悪霊からのものであることを覚えておいて下さい。悪霊は、この強力で効果的な弟子訓練が大嫌いです。しかし、私達はイエス様を通してすでに悪霊に勝利しています。ですから、聖霊に満たされること、良き管(くだ)として用いて頂くことを願い求めながら、祈りつつ歩いていきましょう。

終わりなき成長

他の人がクリスチャンとして成長する際にその励まし役として神様が用いて下さることほど、私達を喜びで満たすものはありません。この二十年間、文字通り何百人もの人々が、この‘キリストの弟子として歩む’を用い他の人のクリスチャンとしての成長の手助けをするその重要性、喜び、満足感を発見してきました。

大学生の時、私に初めて弟子訓練をし、成長し続けるように導いてくれたのがマービン・ラドナーという実業家でした。私達は、最初にエクアドルで、そして大部分をメキシコで、いくつもの教会を開拓し、牧会が始まるように信徒リーダーの訓練に携わりながら、これからお話しする弟子訓練の単純ですが変化に富んだプロセス（過程）に焦点をあててきました。このプロセスに終わりはありません。それは、スペイン語に始まり、次いで英語、そして今や、ブルガリア語、フランス語、日本語、韓国語、リンガラ語、ロシア語、スワヒリ語、スウェーデン語、タガログ語、テニデー語（インドのナガランドで使われているアンガミ・ナガ語としても知られています）と、様々な言語にも翻訳されてきました。

たくさんの違った背景での変化に富んだ弟子訓練を観察すると、人々がこのテキストをそれぞれの事情に合わせて変化させて用いていることがよく分かります。以下のページは、弟子訓練をする側がこのプロセスを通して、積極的な良い体験ができるよう構成されています。

狭い範囲の弟子訓練か、広い範囲の弟子訓練か？

ある集まりで弟子訓練というと、‘教えること’や‘キリスト教教育’と同じ意味を指します。この場合の弟子訓練は、広範囲で包括的な（ありとあらゆる形式の弟子訓練を含む）関係を意味しています。しかし、このテキストでの弟子訓練は狭い範囲、すなわち、経験豊かなクリスチャンとその他2、3人という限られた範囲での集中した関係に焦点を当てています。これは、師弟関係（日本の伝統的な師弟関係のように上下がはっきりした関係とは違い、‘伝えるためにリードする’以外は平等な関係です。）とも言われ、知識、知恵、経験、人生についての考え方、まぼろし（ヴィジョン）を師から弟子へと伝えていきます。

倍増加するリーダー

‘キリストの弟子として歩む10ステップ’は、教会生活や牧会におけるあらゆる分野で対応できるように構成されています。メキシコ・シテイに住むルーシー・ベイグは、慈善の賜物を用いながら、この10ステップを通して他の女性達を訓練し、ある者を牧師に、また、ある者を、長老にと育てました。同じように、この10ステップは、教会学校、ワシップリーダーや教会開拓など、リーダーの育成の倍増加を願う諸々の人々の必要にも対応しています。

教会においての一致と互いに仕え合う

メキシコ・シテイで十二年以上、この10ステップで弟子訓練を続けてきたクリスチャン達の経験談を伺ったところ、‘この10ステップによって、人々を教会にお誘いすると同時に本当の意味で親しくなれるという一石二鳥の効果がありました’というサラの思いもよらなかった嬉しい報告を耳にしました。私の知る中で最も経験豊かな弟子訓練の導き手の一人であるロベルト・ゴンザルズ牧師も、‘この10ステップは、教会の兄弟姉妹達が互いに仕え合うということを実践させてくれます。’と言い、知り合って十六年間にもなるのに‘知り合い’以上の関係に発展しなかった教会のある兄弟同士のことに触れ、今は、[この弟子訓練のおかげで]その兄弟達は、親友となり、互いに仕え合っていると報告してくれました。

一対一以上の関係

この10ステップを一対一の弟子訓練法だというならば、それは、誤っていると言わねばなりません。確かに、一対一でこの10ステップがなされることが多いのですが、だからと言って、必ずしもそれが、この手引きの最も良い方法とは言えないからです。二、三人の弟子でグループを作りこの10ステップに取り組むのが最も効果的で理想的だといえるでしょう。二、三人で集まる所に、キリストの体としての相互関係が実践されます：この状況の下でこそ、私達は、‘互いに仕え合う’ことを最もたやすく学ぶことができるのです。一対一以上の弟子関係が成立するところに暗黙の責任も存在します。

‘弟子訓練’か‘知識の伝達’か？

この10ステップを利用する際に特に注意して頂きたいことがあります—この弟子訓練を他の方々と始める前にどこに焦点

をもっていか、前もって決めてから始めて下さい。あなたは、この10ステップの内容を教えることに焦点をおきますか？それとも弟子訓練の一つのプロセスとして、この10ステップを用い、数人の人達を訓練することに焦点をおきますか？もし、あなたが知識の伝達に焦点をおくなら、‘弟子訓練’ということは少し横において10ステップに取り組みられることをお勧めします。弟子訓練とは、単なる‘知識の伝達’以上のものになるからです。便宜的に、この10ステップを‘クリスチャンの基本的な学び’-

知識の伝達に重点をおいた際の別名一と呼んでもかまいません。その場合、あなたの方の集まりは、‘クラス’であって、‘親しい交わり’とはなりません。というのは、この‘親しい交わり’では、主を中心にし、祈り、交わりによる励まし合い、日々の生活においての聖書の学びを通してあなたとグループの人達が互いに成長し合っていくものだからです。

‘信仰の形成’か‘知識の形成’か？

この手引きの強みはその生き生きとした関係の中で弟子訓練がなされることです。‘キリストに似るものとなる’まで成長し続けることがその中心です。聖書の基本的なことを理解し、敬虔な（神様の喜ばれる）生活と品性を練っていくのがねらいなのです。10ステップを使った‘クラス’の集まりと‘親しい交わり’を比べるならば前者は、インフォメーション（知識の形成⇒知性）に焦点が置かれていますが、後者はフォーメーション（信仰の形成⇒新生）

—具体的には、知識と共に信念、価値観、まぼろし（ヴィジョン）、目標—toに焦点が置かれています。私達は、知識の伝達によって、イエスが主であると知り、[弟子訓練による]信仰の形成によって、日々の生活においてのイエス様の主権を体験することができるのです。

この弟子訓練という枠の中で私達は人生の分かち合いができます。そこに成長があります。まぼろしやミニストリー（御言葉を用いた奉仕）の中で私達はそれぞれの体験を分かち合い、そこから学び合います。主イエスにより頼むほど実を結ぶようになるのです。この様に、弟子訓練によって人は成長し、伝道し、教会を開拓し、祈り、神様を礼拝し、神様の正義・平和これらすべてのものが同時に実践されるのです。

まぼろし（ヴィジョン）を提供するために...

リーダーは‘まぼろし’をもつべきです-

まぼろしとは、明日はどんな将来かを心に思い描くことです。リーダーは、御言

-7-

葉を用いた奉仕の中で未来を思い描き、心躍るような可能性を見つめます。また、まぼろしを提供できるリーダーは、後に続く一人一人（弟子達）の中で折角、芽生えたまぼろしも様々な形で何度も何度も繰り返されなければ一ヶ月もたたない内に簡単に忘れ去られてしまうものだというを理解しています。この10ステップは、まぼろしを提供し、一ヶ月を通してそのまぼろしを何度となく補強します。

他の人の生き方に大きな影響を与える人生

弟子訓練の過程を通して、他の人の生き方にまでも影響を与える生き生きとした関係とはどんなものか、一つの例え話を使ってご説明しましょう。スージーが裏の縁側に置いてあった古くなった人形の家を以前の様に綺麗にしようと思いました。彼女はまず、その日、お父さんがどうやってガレージのドアを綺麗に塗り直していたかを考えました。スージーのお父さんは、戸棚から、缶一つ持ってきて開け、そこに水を加え、混ぜてから、ドアを塗り出していました。という訳で、スージーは、その古ぼけた人形の家ペンキを塗ることにしたのです。始めに、缶を見つけ、水を加え、かき混ぜ、ガレージから持ってきた小さなブラシでその人形の家的一面を塗り始めました。その面が塗り終わる頃、ちょっと後ろに下がってどんなに綺麗になったかを見ようと、スージーは愕然としました。ちっとも変わっていませんでした。後から、お父さんが来てわかった事は、スージーは、水だけで塗っていたということでした。

スージーは、すべき事—ペンキの缶に水を混ぜて塗る事—をすべてしたのになぜ、期待していた通りの結果にはならなかったのでしょうか？スージーには、一つのことが抜けていたのです—顔料、つまり空のペンキの缶に水を入れて塗ったので色がついていなかったということです。これと同じ事が弟子訓練についても言えます。単に10ステップを知識の伝達をして用いるのは、スージーの様に水で塗っているのと同じなのです。というのも、真の弟子訓練では、私達の人生という顔料を分かち合わなければならないからです。顔料を具体的に言うならば、私達の熱意、まぼろし、神様に対する飢え渴き、私達の弱さ、主により頼むこと、聖霊の満たしを求めること、誠実さ、潔さを求めていくこと-

これらすべてそしてそれ以上。これらは、教えるよりも感化されることによって、たやすく広がっていくものです。この10ステップを私達が出会うためのきっかけと呼ぶ所以はここにあります。

-8-

時間と倍増加

他のメンバー達（あなたの弟子達）との交わりのためにあなたがさいた時間と彼らの生き方に影響を与えるあなたの人生という顔料とで弟子訓練はその実を結びます（聖霊に足りない部分を満たして頂くように祈りながら）。ここでは、どんな近道もありません。これは、十週間以上の過程を要するものです。現実的には、六ヶ月から二年かかります。私の個人的な見解では、弟子訓練の実を結ぶために九ヶ月要すると考えています。この10ステップでス

テップ5にいくまでに他のメンバーの一人一人が新たな人達とまたそれぞれ別のグループをつくって、この10ステップでの弟子訓練を開始できることが最も理想的なパターンです。

これは、来たる数週間、あなたがあなたの弟子達、一人一人を励まし、助けることで彼らが受け持っているそれぞれの弟子訓練のグループ（あなたからみて二世代目の弟子達）にも前向きで継続的な効果を及ぼすということにもなるのです。あなたのグループが10ステップのステップ10を終え、聖書研究（53ページ）に入る頃には、あなたの弟子達がそれぞれのグループで（クリスチャンとしての成長を助けるために）そのまた弟子達と親しい交わりをしていること、あなたは、また別の二・三人の小グループをつくって新たな弟子訓練に取り組んでいることが理想的なパターンです。

私は又、弟子訓練での失敗も体験しています。ある時には、10ステップを始めて間もなく、またある時には、あとになって、弟子訓練を続けられない人達が出てきました。弟子訓練をしていく中でその実を結べなかった人達に出会いました。そんな時、私は、主への信頼と自分の弱さの故にただ、ただ、神様により頼みました。もちろん、うまくいかないよりは、うまくいった方が良いというのは言うまでもありません。しかしたとえ、そのようにうまくいかないことが起こるとしても弟子訓練には、取り組むだけの価値が十分にあるのです。

この‘まえがき’は、あくまでも一つのガイドライン（指導目標）なので、この通りにしなければならぬ訳ではありません。しかし、継続的に弟子訓練の過程に適用しうる大ざっぱですが、経験的には確かなガイドラインであります：‘教えて、して見せて、やらせてみる’こと以上にたやすく他の人に伝えていく

-9-

方法はあるでしょうか？私達は、多くの良い礼拝メッセージを聞くことができ、知識を形成するのに役立つ良いセミナーもたくさん開かれています。しかし、残念ながら、他の人々にたやすく伝えやすい形で提供されているものは、あまりありません。簡単に解かり易いのが一番です。

一緒に集まるためのきっかけ

先に申しました様に、弟子訓練の過程は、その生き生きとした関係の中で進行しますので学校の授業のような集まりや時間の浪費につながるようなどんな小さなワナも極力避けるようにしたいものです。そこで、この10ステップの手引きが一緒に集まるきっかけと成長し合うチャンスを提供します。‘互いに学び合う’という項目でよく質問され

ること、この手引きを初めて使う人のためのガイドラインについて実際的なアドバイスをリストにしてみました。

誰を弟子訓練すべきでしょう？

‘私は誰を弟子訓練すべきでしょう？’という質問をよく受けます。下記の五つのタイプから、あなたの答えを見つけることができます。

1, 新しくクリスチャンになった人達と。最初、この手引きは新しく信じた人達がすぐに家族や友人とイエス様への信仰を分かち合えるようにと作られました。もともと、この手引きは、新たにクリスチャンになった人達がすぐに友人達や家族と弟子訓練を始め、彼らにイエス様のことをできるだけ早く知ってもらいたいという希望からスタートしたのです。

2, 熱心なクリスチャン達と。人生の方向や目標について明確な考えがなければ、若い熱心なクリスチャン達は、主イエス様との歩みにおいてすぐにマンネリ化に陥ってしまうでしょう。この10ステップは、継続的な成長と目標の明確なミニストーリーに焦点をあて、その状況を提供します。

3, 長くクリスチャンとして歩んでいる人達と。この10ステップは、長くクリスチャンとして歩んできた人達（熟年クリスチャン）が他の人に一特に彼らの祈りが実を結んで新しくクリスチャンになった人達にもっと伝えられるよう、今まで蓄えてき

-10-

た知識を整理する枠組みを提供します。また、この手引きは、日々の生活において神様に飢え渇きを覚えているクリスチャンが新しくされるといふワクワクするような可能性も提供します。弟子訓練では、私達は共に成長し合います—お互いが弟子訓練をする者であり、弟子訓練を受ける者でもあるのです。

4, これからクリスチャンになる人達と。この10ステップは、これからクリスチャンになる人達（まだイエス様を信じていない人達）がクリスチャンになるとはどのようなことを理解するのに役立ちます。この4の場合は、目次を活用して、様々なテーマからあなたのグループの必要に応じたステップを選んで取りかかる、もしくは、どのステップから始めるかを決めましょう。（この場合、40-

42ページにある補足ステップから始めるのもグループのために役立つでしょう。)

5, 自分の子ども達と。子ども達が十代になった時、週に一回、一人ずつ学校に行く前によく朝食に連れ出して弟子訓練をしました。子ども達と出かけるとても楽しい時間となりました。学校のことや友達のことなどを話し合いながら、私達は少しずつ10ステップを進めていきました。子どもの仲の良い友達を交えてするのは、とても効果があります。低学年のお子さんには、週に一回、学校の帰りにアイスクリーム屋さんへ寄ってするのも良いでしょう。この5の場合は、まず、お勧めするのは、(説明などは)短めにすること、絵や図などを使って伝えるようにするとよりスムーズで効果的であるということです。

感謝をこめて。

弟子訓練を導くクリスチャンであれば、この手引きのほとんどがオリジナル(私、個人だけの考えで出来たもの)ではないということが容易におわかりになるでしょう。南アメリカのエクアドルで、妻のナンシーと私は、この手引きの初版を編集しました。私達は、この10ステップの主要なテーマを決めるきっかけとなったナビゲーターの車輪のイラストを引用しました。その後、デール・ビショップやキース・タングセスによる車輪のイラスト改作版に改め、私達で聖霊を象徴する‘車軸’を付け加えました。多くの弟子達、その導き手(弟子訓練をするクリスチャン)、ミニストリーの同僚達がこの手引きをより良いものとなるように協力してくれました。私達は、‘クリスチャンの人生管理’(49ペ

-11-

ージ参照)について協力してくれたティム・エックに感謝しております。また、メキシコでの私達の同僚でもあったジェリー&ヴィッキー・ラブ夫妻に特に感謝します。彼らは、この10ステップを試験的に使ってより実用的な手引きとなるように、又、40-

44ページの補足ステップが充実した内容になるよう手助けしてくれました。エクアドル、メキシコに短期間宣教師として来ていたカール・レイシーに、彼の鋭い洞察とアドバイスに感謝します。メキシコでの前短期間宣教師、現ユース・パスター(青年担当牧師)であるキース・ハミルトンの斬新な洞察とアイデアにも感謝せざるにはいられません。この10ステップを最新バージョンに日本語訳するために熱心に取り組んでくれた杉崎佐紀子さんにも感謝します。

アメリカに戻ってきた後、私(ジェリー)は、ノース・パーク神学校で福音伝道と教会成長と弟子訓練を教え、ナンシーは、私達の所属教団であるカヴァナントの世界宣教部ラテン・アメリカのミニストリーでまとめ役として働いています。アメリカ、カナダ、アジア、ヨーロッパ、ラテン・アメリカとそれぞれの国で牧師・信徒を対象にした弟子訓練のセミナーに何週間も時間を費やししながら、私達は

引き続き、弟子訓練に関わってきました。私のクラスの生徒からや個人的な経験から得たものだけでなくセミナーからも得た‘声’や洞察がこの現在の‘クリストの弟子として歩む10ステップ’(3.5バージョン)に反映されているのです。

シカゴ、二〇〇二年三月

Jerry and Nancy Reed
ジェリー&ナンシー・リード

この翻訳にたずさわられた恵みを神様にまた、ジェリーに、感謝せざるにはいられません。原文にできるだけ忠実に訳すよう努めましたが、原版で‘イブ・ルック・エンカウンター(Discipleship Encounter)’の意図した師弟関係(弟子訓練)は、日本の伝統的な師弟関係とは違い、対等な立場を土台にした、ペリピ2:3にあるような相互関係でしたので、このことを明確にするため、原題や原文の‘弟子訓練’等の言葉を意図的に違約しました。また、実際にお会いしたことはありませんが、前回のこの10ステップの日本語訳に貢献された宮本俊一牧師(グレース・ミッション・チャーチ/東京)、ティム・ジョンソン宣教師(米国カヴァナント/群馬)のお二方にも感謝いたします。今回の翻訳の際、大変、参考にさせて頂きました。

杉崎佐紀子

キリストの弟子として

ステップ 1

救いの計画と 4 つの確信

1. もし、誰かに“クリスチャンってどんな人？”と聞かれたら、あなたは、どのように答えるでしょうか？
2. “救い”はイエスキリストを受け入れることのみから来ます。“四つの法則”(<http://www.ccci.org/laws/japanese/3.html>)のような小冊子は私達がどの様にイエス様を受け入れてクリスチャンとしての生活がスタートしたかを説明するとき役に立ちます。
 - 2.1 “ローマ人の手紙”からクリスチャンになる--ローマ書街道
 - A. 人間の問題；罪- **ローマ 3：23**
 - B. 罪の結果と神様の贈り物- **ローマ 6：23**
 - C. 私たちの罪のために神様がはらった高価な代償-**ローマ 5：8**
 - D. 信仰とキリストを主として従うこと-**ローマ 10：9**
 - E. 神様に全てゆだねていく者としての召し-**ローマ 12：1, 2**
 - 2.2 救いは神様からの贈り物-**エフェソ 2:8-10**
 - 2.3 救いのミニチュア・プラン-
黙示 3：20、ヨハネ 1:12、ローマ 10:9
3. 四つの確信

とりわけ新しくクリスチャンになった人に対してサタンは、以下の四つの点において攻撃してきます。私達はイエス様のように、神のみ言葉をもって身を守ります。-**マタイ 4:4, 7, 10**

3.1 救いの確信	Iヨハネ 5:11, 12	<input type="checkbox"/>
3.2 誘惑に勝利する確信	Iコリント 10:13	<input type="checkbox"/>
3.3 赦しの確信	Iヨハネ 1:9	<input type="checkbox"/>
3.4 私達の必要に対する神様の備えの確信	ヨハネ 16:24、マタ 16:25-34	<input type="checkbox"/>

ホームワーク：黙示 3:20、ヨハネ 1:12 を覚えましょう。続く数週間のうちに以下の聖句も覚えましょう。

ローマ 10：9	Iヨハネ 1：9
Iヨハネ 5：11, 12	
ヨハネ 16：24	Iコリント 10：13

* は宿題を示し、できたら、チェックをいれましょう。

ローマ 1:11, 12 “私があなたがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでもあなたがたに分けて、あなたがたを強くしたいからです。というよりも、あなたがたの間において、あなたがたと私の互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいのです。”

1. 弟子訓練
 - 1.1 A. 4 世代へと実を結ぶ（倍増加する）弟子訓練の聖書的モデル
 福音とクリスチャン生活は、簡単に他の人と分かち合えるため、キリストの弟子一代目(一粒の種)から、さらに次の複数の人々へと、福音が倍増的に伝えられ、四世代にいたる実を結びます。

 一代目：パウロ
 二代目：テモテ
 三代目：忠実な人々
 四代目：他の人々
 - B. 旧約聖書での弟子訓練の原則— 詩篇 78:5,6
- 1.2 二つの湖のたとえ：
 - A. 死海--
 命を養うことができない。なぜなら、この湖では、水がヨルダン川から流れ入るのみで流れ出ることがないからです。（これは、受けるのみで福音やクリスチャン生活を他の人と分かち合えないクリスチャンにたとえられます。）
 - B. ガリラヤ湖—命を養うことができる。なぜなら、水がヨルダン川から流れ入るだけでなく、流れ出ることもできるのでこの湖の水は、にこらないのです。（他の人とキリストを分かち合えるクリスチャンにたとえられます。）
- 1.3 聖書からのたとえ：
 - A. アンデレはシモンペテロを誘う。 **ヨハネ 1:40-42**
 - B. ピリポとナタナエル **ヨハネ 1:43-45**
 - C. イエスと弟子たち **マーク 3:14**
 イエス様はまず、共に生活して、ご自分の姿（生き方）を示されるために弟子たちを選び出しその後、彼らを送り出しました。私達の弟子訓練も 知成だけでなく、互いの信仰生活から学び合う（信成→ 新生へのプロセス）ことが大切です。
 インフォメーション（知識の形成→ 知性）--弟子訓練の 10%
 フォーメーション（信仰の形成→ 新生）--弟子訓練の 90%

2. ルカ14:25-

33から弟子訓練において、どの様な必要条件がありますか？（この聖書箇所は、当時のヘブル社会で、要点を明確に教えたい時によく使われた極端な言い方です。）

マタイ10:37, 15:3-4と比較して下さい。（この箇所から、イエス様が弟子となる引き換えに私達に実際に両親を捨てることや軽んじることを要求しているのではないことがわかります。）

3. ヨハネ15：7－16の中で弟子になることの特権はいくつありますか？

4. キリストの弟子としての基本的な特徴。以下の特徴は成長する弟子として各自の目標を明確にする手助けとなるでしょう。私達はみんな、学び続け、成長し続けるのです。

4.1 弟子としての人生を通して個人的に成長しうる特徴：

A. 確固たる意志：**Iコリント16:13,14** “目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。男らしく、強くありなさい。いっさいのことを愛をもって行いなさい。”

B. 成熟。イエス様のような人格への成長—**エフェソ4:14, 15**

C. 勤勉さ。学びたい気持ちを持ち、学んだ事を**実践**することに努めましょう。**Iテモテ4:15,16**

D. 誠実。お互いに親しくなり、信頼を築く。**Iコリント4:2.**

箴言20:6. 伝道の書5:4-6a

E. 模範になる。従うものとして、他の人の模範になりなさい。**Iテモテ4:12**

F. 励ます。他の人が人生のあらゆる分野で成功するように励ましなさい。**ピリピ2:3,4. ルカ22:24-26. ローマ12:3**

G. 自分に合ったペース配分をしましょう。‘長丁場に備えて’（長く続けられるように）計画する。—**Iコリント9:24-27**

4.2 クリスマン・リーダーシップ（リーダーとしての権威）を理解するために。

A. 友情は努力が必要—**箴言17:17 ; ヨハネ15:12-14.**

B. リーダーシップは仕えることが中心—**マルコ10:43-45.**

クリスマンのリーダーはしもべ(仕える者)です。これは、私達の社会でいうリーダーとは異なり、イエス様が私達に示された模範です。

C. 互いに仕え合うことは、神様のご計画です。--

エペソ5:21,

Iペテロ5:5,そして、一致するとは、1つの体につながり合わされた結果なのです。--**エペソ4:16**

D. クリスマン・リーダーの権威は、他の人と一緒に働いたり、自ら進んで他の人の下で働いた結果、与えられるものです。テトスがパウロによって、どの様に、権威が与えられているかに注目しましょう。--**テトス1:5**—権威をもって行動すること—

テトス2:15,また、パウロが使徒たちにどの様に仕えているかにも注目してみましょう。--

使徒15:1,2 ; 16:4とガラテヤ2:9,10. 私達は、霊的な権威を認識し、その権威に従います。これは、押し付けではありません。

ホームワーク：**IIテモテ2：2**を覚えましょう。

弟子の特徴を探してみましょう。：

ヨハネ13:34,35 _____

ヨハネ8:31 _____

エペソ6:18 _____

Iペテロ3:15 _____

ヨハネ15:8 _____

マルコ10:43-45 _____

使徒1:8 _____

車輪のイラスト (デボーション)

1. 個人的な日々の聖書朗読と祈り。

キリストの実例—マルコ1:32-35

1.1 まず、7分間のデボーション・タイムから始めましょう：

--2分間：主の語りかけと聖霊様の教えを求める。

--3分間：目にとまる御言葉が出てくるまで聖書を読む。

--2分間：神様とそのみ言葉について話し合う。神様が指摘されたことをあなたの生活に適用する。神様の働きに従い、神様があなたの内側で、又は、あなたを通して働かれることを期待する。

1.2 必要なもの：一定の時間・場所・計画性・と聖書一冊（ペンとノートもあると良い。）

2. 車輪のイラスト*（この後、続いてテキストに出てくる各ステップのテーマそれぞれの関係をあらわしています。）

2.1 キリスト—車軸、 人生の中心です。—ピリピ2:9-11

2.2 聖霊—車輪の中央部、 エペソ5:18; ヨハネ16:13, 14 ; ルカ3:16

2.3 縦のスポーク（神様はみ言葉を通して私達に語りかけ私達は祈りを通して神様と対話します。）

御言葉—詩篇119:9, 11 ; マタイ4:4

祈り—ピリピ4:6, 7 ; ヨハネ15:7

2.4 横のスポーク

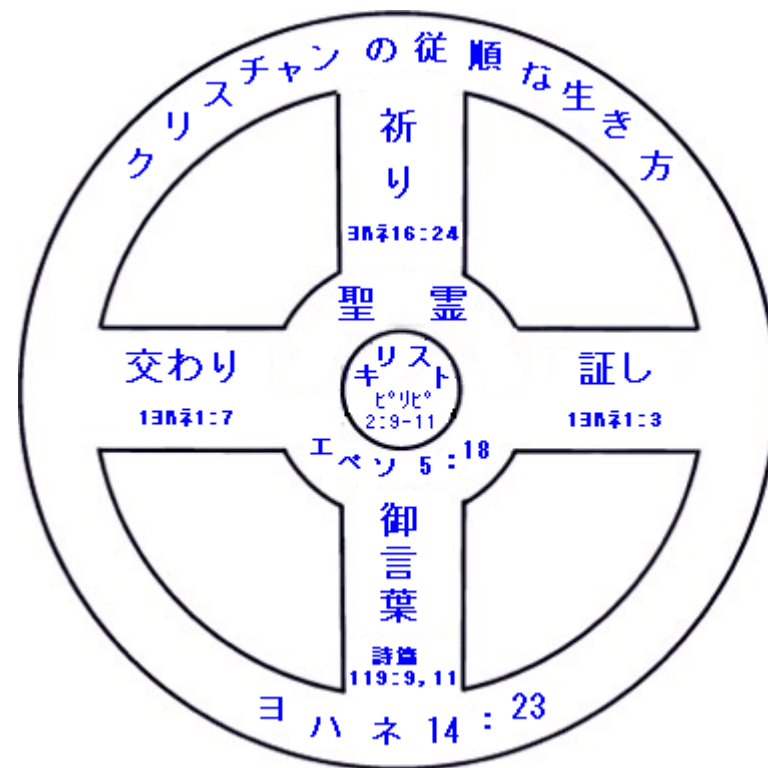
（私達は交わりを通して他のクリスチャンと接し、又、証しを通して、ノン・クリスチャンの人たちとも接します。）

交わり— Iヨハネ1:7

証し— Iヨハネ1:3

2.5 クリスチャンの従順な生き方 —ヨハネ14:21 ;

ルカ6:46-49—タイヤ或いは、車輪のわく（リム）—この部分がすべての部分をつなぎ合わせる。



ホームワーク：デボーションを始めましょう、又は、続けましょう。

暗唱聖句：ヨハネ15:5

車輪の部分覚えましょう。

* “ナビゲーター” の車輪のイラストを許可を得て引用しています。

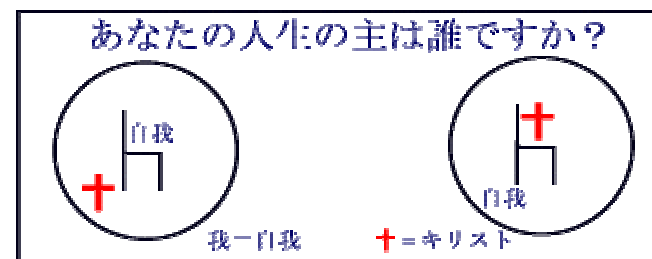
主なるキリスト キリスト中心

- 1、 聖書によればイエスキリストは主である*と語っています。キリストは私達それぞれの人生の主になることを願っています。「主」という言葉の意味は、‘持ち主、チーフ、奴隷の主人、最高の権威者、王様’です。この言葉は又、‘完全な支配者、偉大な権力者、主人’を指します。ですからルカ6:46にててくる質問に私達は考えて答えなければなりません。
- 2、 私達は、誰を主人とし、仕えるか決めなければなりません。（ふたりの主人に仕えることはできません。） -ルカ16:13
- 3、 イエス様の新しい管理のもとで、或いは、イエス様があなたの人生の主となると不都合になる分野を下記のリストの中から2、3あげてみましょう。
 - 3.1 ▶優先順位-マタイ6:33
 - 3.2 ▶物（服、車）など。 -ルカ12:15
 - 3.3 ▶社会的地位-マタイ20:26-28
 - 3.4 ▶社会的権力-Iペテロ5:5,6
 - 3.5 ▶プライド-ローマ12:3
 - 3.6 ▶家族-ルカ14:26 ; マタイ10:37
 - 3.7 ▶現実逃避-ドラッグ、アルコール、エペソ5:18
 - 3.8 ▶娯楽-マルコ4:19
 - 3.9 ▶自己中心-ピリピ2:3,4
 - 3.10 ▶お金-伝道者の書5:10,11 ; 詩篇62:10
 - 3.11 ▶セックス-Iコリント6:18-20 ; マタイ5:27,29
 - 3.12 ▶不安-ローマ8:28 ; ピリピ4:6
 - 3.13 ▶良い行い-ローマ4:4,5 ; エペソ2:8-10
 - 3.14 ▶十一献金を怠る-マラキ3:8-10 ; IIコリント8:1-5; 9:6-8。

*新約聖書では、キリストは「救い主」と記されている箇所が24回ありますが、キリストは「主」とあるという箇所は600以上あります。イエス様が私達の生活の「主」（全てをコントロールする）であることの重要性が現されています。

- 3.15 ▶恐れ-IIテモテ1:7 ; Iヨハネ4:4,18

- 3.16 ▶誘惑の多い生活-ピリピ4:8 ; コロサイ3:2
 - 3.17 ▶批判的態度-マタイ7:1-3
 - 3.18 ▶苦い思い-ヘブル12:14,15
 - 3.19 ▶言葉づかい-ヤコブ3:2 ; 箴言26:20-22
 - 3.20 ▶嫉妬-箴言14:30 ; Iペテロ2:1
 - 3.21 ▶不機嫌-箴言16:32 ; IIテモテ1:7
 - 3.22 ▶無責任-Iコリント4:2 ; マタイ25:14-30
 - 3.23 ▶健康-Iコリント6:19,20
 - 3.24 ▶うそ-レビ19:11 ; エペソ4:25
 - 3.25 ▶憤り-箴言10:12 ; Iペテロ3:9
 - 3.26 ▶人をゆるせない-マルコ11:25,26
 - 3.27 ▶その他..（例えば、人種差別、キリストを否定する、他の人を受け入れられない、だますこと、不正、自分の利益のために他人を利用する、犯罪行為、など。）
4. あなたがたの体を、神に受け入れられる、聖い、生きた供えものとしてささげなさい。 ローマ12:1,2



- 4.1 あなたの生涯を神様にゆだねる事を考えましょう。あなたの人生が神様のもとになったら必ず、神様が常に守って下さいます。そうであるなら神様の御力と守りの中で安心していことができます。

4.2あなたの所有物全部を神様にゆだねる事を考えてみてください

。創世記22:1-18

—アブラハムは、神様に何を献げましたか？

—その献げものに神様は、何をしましたか？

—あなたの人生や所有物を神様に献げたら、神様があなたの人生で最上のことをなして下さると信じられますか？

4.3あなたの人生にどんなことが起こっても絶えず、神様に感しましょう—

Iテサロニケ5:18 ; エペソ5:20. これは、あなたが真に自分自身や自分の持っている物を神様にささげて初めてわかる大切なポイントです。

4.4日々、キリストの導きを求めなさい。このことは、毎日続けるべきことです。—ルカ9:23

A. 自分を捨てて

B. 毎日、自分の十字架を負う

C. キリストについて行く。

ホームワーク 暗唱聖句：ピリピ2：9－11

小冊子“**聖霊に満たされたすばらしい喜びの人生**”を読みましょう。

※このイラストは、上記に記した小冊子（キャンパス・クルセード・フォー・クライストから1966年に発行）から引用しています。

ステップ5

21-

聖霊

1. 信じた者は皆、聖霊を受けています。
 - 1.1 聖霊をもって証印を押されている。—エペソ1:13
 - 1.2 ‘御霊ご自身が私達の霊とともに、’ 証しして下さる—ローマ8:16
2. バプテスマのヨハネの言葉
 - 2.1 “その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。”—マタイ3:11、マルコ1:8、ルカ3:16
 2. 約束の成就—使徒1:5、2:4
3. イエス様の教え
 - 3.1 求める者には、天の父が聖霊を与えられる。—ルカ11:9-13
 - 3.2 聖霊を象徴するもの：
生ける水の川—ヨハネ7:37-39、
ハトのような—マタイ3:13-17、
風—使徒2:2、
火—使徒2:3。
 - 3.3 聖霊の役目
 - A. ヨハネ14:26
 1. 助け主—天の父がキリストの名によってお遣わしになる。
 2. すべての事を教える。
 3. 私達がイエス様の言った事を思い起こすのを助けてくれる。
 - B. ヨハネ15:26—16:15
 1. 助け主—ヨハネ15:26
 2. 真理の御霊
 3. キリストについて証しする。
 4. 世に対して誤りを認めさせる；—ヨハネ16:8
—罪
—義
—さばき
 5. すべての真理に導く—ヨハネ16:13：自分から語るのではなく、聞くまを話す。

- 6. やがて起ころうとしている事を示す。
- 7. キリストの栄光を現す。--ヨハネ16:14

C. 使徒1:1-9—証しする力を与えられる。--使徒1:8

D. キリストの福音をより確かなものにする
--ローマ15:18-19、ヘブル2:4

- 4. ペンテコステ以前に弟子達は聖霊を受けていました。--
ヨハネ20:22、しかし、聖霊に満たされたのは、ペンテコステ以後でした。(次のポイント5を見て下さい↓)
- 5. ‘使徒の働き’は、聖霊で満たされることについて述べています。
使徒1:8、エペソ5:18。‘使徒の働き’は、このことについて、人それぞれ異なる体験があることを記録しています。
(使徒2:1-4、8:14-17、9:17-18、10:44-48、19:1-6)
使徒2:1-4と同じく使徒4:31 継続した聖霊の満たしの体験とを比べてみましょう。
- 6. 聖書で私達は“御霊に満たされなさい”(エペソ5:18)とされています。
- 7. 上のポイント6の御言葉を受けて、‘聖霊の満たし’についてのイエス様の教え(最初のポイント= 3の3.1)に戻ります。--
ルカ11:13.
誰でも求める人に、天の父は、聖霊を与えて下さる。
ですから私達は、信仰によって求め、受けなければなりません。
ガラテヤ3:2-5
- 8. 聖霊と人々
 - 8.1聖霊が満ちあふれ、聖霊によって私達の人生のあらゆる分野がコントロールされなければなりません--エペソ5:18
 - 肉体的にも精神的にも霊的にも--Iテサロニケ5:23
 - A. 私達の霊—聖霊によって与えられた--ローマ8:16
 - B. 私達の体—肉体的な部分 ローマ12:1、Iコリント9:27
 - C. 私達の心—心理的、精神的な部分 ローマ12:2
- 8.2聖霊ご自身の目的や一人一人に神様が与えられた計画に応じて、御霊の賜物が与えられます。その賜物は、ふつう、他の人を

祝福するためのものです。ローマ12:4-8、Iコリント12:1-11&27-31、エペソ4:11、Iペテロ4:10、

- 8.3私達には、‘霊的戦い’があります。
 - A. 世に対して- Iヨハネ2:15-21、ヨハネ16:33
 - B. 肉(人間の欲望)に対して- ガラテヤ5:16-17、ローマ8:9、13
 - C. 悪魔に対して- Iペテロ5:7-9、エペソ6:10-13

8.4聖霊が人生の主導権を握り、私達は、御霊によって歩まなければなりません--ガラテヤ5:16, 18, 25

私達は、この御霊によつての歩みを信仰と、以下の事がらとによつて始めます。

- A. 信仰によつて聖霊の満たしを受ける
(前ページのポイント7参照)。
- B. 神に服従する--ヘブル12:9、ヤコブ4:7、ガラテヤ2:20、ゼカリヤ1:3
- C. 私達の心配や思い煩いを神にゆだねる。--Iペテロ5:7
- D. 悪魔が私達から逃げ去るように悪魔に立ち向かいなさい--
ヤコブ4:7, 8、マタイ16:23、エペソ4:27、6:11, 16、Iペテロ5:8, 9、黙示12:11
- E. 御霊の実を結びなさい。--ガラテヤ5:22, 23
- F. 罪に満ちた肉の情欲や欲望を十字架につける--ガラテヤ5:24
- G. 聖霊との交わりは継続的なものです。

- 9. 聖霊が教会にとどまる。(クリスチャンの集まり)
 - A. Iコリント3:16、IIコリント6:16を見て下さい。神の神殿はあなた方です(単数形の‘あなた’ではないことに注目)
 - B. 聖霊が教会での決断の一致に導いて下さる。--使徒15:28
 - C. 神様は聖霊を通して教会に住まわれる--エペソ2:22

ホームワーク：暗唱しましょう。 エペソ5：18
ローマ8：16

小冊子“御霊に満たされたすばらしい喜びの人生”をもう一度、読んでみましょう。

み言葉

1. なぜ、聖書をクリスチャン生活の基本として用いるのでしょうか？--IIテモテ3:16, 17 IIペテロ1:20, 21
2. クリスチャンにとって、聖書とは：
 - 2.1 永遠に変わらない神の言葉
 - A. 聖霊を通して、神様が語られた--IIペテロ1:20, 21
 - B. 神の言葉は永遠に変わることがない--Iペテロ1:23-25
 - 2.2 霊的な食べ物- エレミヤ15:16、マタイ4:4
 - A. 肉体を維持するために食べ物が必要です。私達のたましいは学ぶことで養われますが、私達の霊には神のみ言葉による栄養が必要です--ヘブル5:12-14
 - B. み言葉（ミルク）は慕い求めるもの--Iペテロ1:25-2:2
 - 2.3 私達の最大の武器- エペソ6:12-17
 - A. サタンに対してイエス様がとった防御- マタイ4:4, 7, 10
 - B. 御霊の与える剣- エペソ6:17
 - C. 私達の人生において力強く作用する- ヘブル4:12
 - 2.4 道を照らす灯り- 詩篇119:105
 - A. 私達が神様の御座に近づく方法を示す：
 1. イエス様を通して与えられる救い--ヨハネ14:6
 2. 大祭司であるイエス様を通して**大胆**に近づく
--ヘブル4:14, 16
 3. イエス様の御名を通して祈る- ヨハネ14:13, 14
 - B. 神様の要求や目的を示す：
 1. 福音伝道における命令（大宣教命令）--ヨハネ3:16、マタイ28:18-20
 2. 社会的な命令-創造されたものの管理-
創世記1:26（P. 27のクリスチャン生活における管理を見て下さい）--ヨハネ14:13, 14
 3. ‘神の愛’についての法則- マタイ5:43-47、
ヨハネ13:34, 35、Iコリント13:4-8
3. クリスチャンに対して聖書の果たす役割：
 - 3.1 心の中や考えを見分ける- ヘブル4:12
 - 3.2 罪から防御してくれる- 詩篇119:11

（御言葉を暗唱することは大切です--申命記6:6、箴言7:1-3）

3. 3知恵を与える- 詩篇19:7、IIテモテ3:15
3. 4心を喜ばせる- 詩篇19:8、エレミヤ15:16
3. 5有益である “…教えと戒めと強制と義の訓練とのために…”
--IIテモテ3:16, 17
3. 6以下のことを確信しましょう：
 - A. 罪の赦し- Iヨハネ1:9、使徒26:18
 - B. 新しい性質（生活）--IIコリント5:17、IIペテロ1:4
 - C. 主の導き- 詩篇32:8、使徒16:6-10
 - D. 主の臨在- マタイ28:20
 - E. 誘惑に打ち勝つ- Iコリント10:13
 - F. 私達のすべての必要を満たす--ヨハネ16:24、ピリピ4:19
 - G. 永遠の命- Iヨハネ5:11, 12、ヨハネ5:24
 - H. 主が再び来られる- Iコリント15:52、Iテサロニケ4:16, 17
4. 日常生活にも適用できるようにみ言葉に対しての知識を深める五つの方法*



*このイラストは“ナビゲーター”より許可を得て引用しています。

ホームワーク：聖書の各巻の名前を覚えましょう。

□

暗唱聖句 詩篇119:9, 11

□

祈り

祈りは、神様に心の中を打ち明け、神のみ言葉を聞く、神との対話です。いつでもどこでも祈ることができます。

1. 祈りの要素

ヒント：この祈りの要素を’こ・れ・かん・たん’（各文字の最初の音を合わせた合成語）と、覚えてみてはいかがでしょうか。

1.1 (こくはく) 告白--Iヨハネ1:9、詩篇66:18、箴言28:13

1.2 (れいはい) 礼拝 / 讚美--詩篇86:12、ヘブル13:15

1.3 (かんしゃ) 感謝--エペソ5:20、Iテサロニケ5:18、
ピリピ4:6,7 □

1.4 (たんがん) 嘆願 / 懇願

A. 他の人々のために-とりなしの祈り-

コロサイ4:12、エペソ6:18-

19 (他のクリスチャンのために祈らないのは罪です
- Iサムエル12:23)

B. 主が収穫のために働き手を送って下さるように- マタイ9:37

C. 私達自身のための願い- マタイ6:11、7:7,8

2. なぜ祈るのでしょうか？

2.1 神様が祈るよう命じておられる- ルカ18:1-

7、“絶えず祈りなさい”-

Iテサロニケ5:17、私達には、祈る必要がある- ピリピ4:6,7

2.2 キリストの模範- マルコ1:35

“…寂しいところに出て行き、そこで祈られた。”

2.3 パウロの模範

“いつも祈っている”- コロサイ1:3、Iテサロニケ3:10

“私がキリストを見習っているようにあなたがたも私に見習いなさい。”- Iコリント11:1

2.4 ‘靈的な戦い’ 祈りによって、私たちはサタンの支配と力に勝利する。--エペソ6:12, 13, 18

3. 私達の祈りを妨げるものは何ですか？

3.1 罪- イザヤ59:1, 2

3.2 疑い- ヤコブ1:6、マルコ11:24

3.3 私達の悪い動機- ヤコブ4:3

3.4 家族との関係- Iペテロ3:7

3.5 許さないこと- マルコ11:25, 26、マタイ6:15

3.6プライド- Iペテロ5:5

3.7サタンの霊の力- エペソ6:12、ダニエル10:2, 12-14

下記のみ言葉から主がどの様にお答えになるか学びなさい。右の参照聖句と左の祈りの答えとを線で結びなさい。

(つづきは次のページ)

4. どうしたら効果的な祈りができますか？

4.1 主の命令を守り、主に喜ばれることをしなさい-Iヨハネ3:22

4.2 神様の御心にかなう願いをしなさい- Iヨハネ5:14

4.3 信じて求めなさい- マタイ21:22

4.4 イエス様の言葉を心にとどめなさい- ヨハネ15:7

4.5 許しなさい- マルコ11:25

4.6 謙遜でありなさい- Iペテロ5:5

4.7 大切なものは何かをわきまえなさい(優先順位)- マタイ6:33

4.8 はっきりと (具体的に) 求めなさい- マルコ10:51

A. Iヨハネ5:14, 15

1. 待ちなさい。

B. IIコリント12:7-9

2. 異なった答え

C. ヨハネ11:1-44

3. 明確な「はい」の答え

D. 使徒3:1-10

4. 一度の答えではなく徐々に与えられる答え

E. 申命記7:22

5. 否定「いいえ」の答え

5. 祈りによる結果は何ですか？

5.1 聖霊を受ける- ルカ11:9, 13

5.2 平安- ピリピ4:6, 7

5.3 喜び- ヨハネ16:24

5.4 愛情に満ちた取り扱い- Iペテロ5:7

5.5 知恵- ヤコブ1:5

5.6 いやし- ヤコブ5:13-15

5.7 信仰の成長 (例: アブラハム) --創世記18:16-33

5.8 リバイバル- II歴代誌7:14

(答えは、29ページの一番下にあります。)

6. 集まって心を一つにして祈る-使徒2:42、4:31、マタイ18:19-20

- ホームワーク : 暗唱聖句 **ピリピ4:6, 7**
- 毎日の祈りのリストを作りそれを使ってみましょう。
- 詩篇や讃美歌の中から祈りの時や神様をほめたたえる時に使われている様々な主の呼び名や主を示す表現をあげてリストにしてみましょう。

練習 : 主は祈りについても「はい」とお答えになるでしょうか？

証し

1. 証しの方法

1.1 私達の生き方- ヤコブ1:22、コロサイ4:5-6、Iペテロ3:16

“あなたの行動があまりにも多くを物語るのでは私はあなたが実際に言っていることが聞こえない” ラルフ.W. エマソン
--- (言行の不一致)

1.2 私達の言葉- Iヨハネ1:3、Iペテロ3:15

A. 直接的な証し (伝道)

- 例: ‘四つの法則’ の使用- IIテモテ1:8

B. 間接的な証し

--自分の言葉で (信仰告白) あなたの人生の中で神様がどのように力強く働いたかを分かち合う。

1.3 他人の必要や問題に対する私達の祈り- 使徒28:8

2. 救いの責任は誰にありますか? (付録の40~42ページも参照。)

2.1 イエスキリスト- Iテモテ1:15

2.2 私達は、キリストの大使です。IIコリント5:19, 20

2.3 福音- 救いに導く神の力 ローマ1:16、あなた自身の言葉で福音を説明して下さい- Iコリント15:3, 4

3. 証し人の例; ピリピとエチオピア人- 使徒8:26-40

3.1 ピリピは、言葉をつかって伝えました。

-- ‘ピリピは口を開き’ --使徒8:35

3.2 証しする時にピリピは、御言葉を用いました-

同じく使徒8:35. 聖書による ‘救いの計画’ は私達がピリピのような証し {人々を救いに導く} をする手助けになります。(これは、ステップ1 で見たローマ書街道の別バージョンです。)

救いの計画

A. すべての人は罪を犯している- ローマ3:23

B. 罪の報酬- ローマ6:23

C. イエスは私達のために死なれた- ローマ5:8

D. 救いは神からの贈り物- エペソ2:8-9

E. あなたはそれを受け取らなければならない

- 黙示3:20、ヨハネ1:12

F. 神を主として受け入れなければならない- ローマ10:9

G. 救いの確信- Iヨハネ5:11, 12

(28ページの答: A-3、B-5、C-1、D-2、E-4)

3.3 ピリピは証しする用意 (心の備え、聖書への理解) ができていました- Iペテロ3:15, 16

4. 個人的な証し

4.1 個人的な証しとは何でしょう? Iヨハネ1:3、使徒4:20

4.2 パウロの証し- 使徒26:4-23, 22:1-

21. この証しは三つに分けられます:

A. キリストを知る前の生活 --使徒26:4-11

B. キリストに出会った時 --使徒26:12-18

C. キリストを知った後の生活 -- 使徒26:19-23

5. 皆が一体となっているクリスチャンの集まり- 力強い証し

--ヨハネ17:21, 23、Iコリント12:20, 25

6. 私達が証しする範囲は、大宣教命令で知られるイエス様の最後の言葉から ‘あらゆる国’ です- マタイ28:19-

20. イエス様が最初に弟子達に話しかけた言葉と比べる時にこの言葉の重要さがわかります-

マタイ4:19. イエス様が祈るように、と命じられたことを思い出してください-

マタイ9:37, 38. この証しの範囲の輪は、家庭や職場のような私達の日常から始まり全世界に向かって大きな輪、さらに大きな輪へとどんどん広がっていきます- 使徒1:8.

ホームワーク: Iヨハネ1:3 を覚えましょう。 □

4.2 にならって三つの部分に分けて自分の証しを書いてみましょう。 □

3.2 の ‘救いの計画’ を覚えましょう。 □

‘橋のイラスト’ の説明ができるようにしましょう。(43ページを見てください。) □

ステップ9

31-

交わり

1. 交わりとは、グループ内のメンバー同士による一致です。この交わりは、仲間として友達としての親しいつき合いであり、お互いの生活体験や活動や興味を分かち合います。クリスチャンにおける交わりとは、唯一のリーダーであるキリストのもとに共に住む一つの家族なのです。互いに愛し合い、助け合い、学び合うことは、キリストに従うことでもあります。

2. 交わりの基本

2.1 すべての人が以下に基づいた関係をもっているか、必要としています：

- A. 何かに入りたいという欲求
- B. 共通の趣味
- C. 自分の価値を認めて欲しいという要求
- D. 楽しみたいという欲求

2.2 クリスチャンの交わりには、超自然的な面も加わります。クリスチャンの交わりは：

- A. 父なる神と御子との親しい交わりに基づく - **Iヨハネ1:3**
- B. 光の中を歩むことを意味します - **Iヨハネ1:7**
- C. 不変です、というのは、キリストはいつまでも同じだからです - **ヘブル13:8**
- D. ‘ひとりひとり互いに器官なのです’ - **ローマ12:5**

3. 初代教会の例

3.1 絶えず行われた四つの事 - 使徒2:42

- A. 使徒の教えを堅く守る
- B. 交わり
- C. パンをさく
- D. 祈り

3.2 ‘同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにする’

--**ピリピ2:1-2**。このことは、どういう意味か自分の言葉で言い換えて下さい。

3.3 クリスチャンは互いに愛し合います

--**Iテサロニケ4:9-10**、 **IIテサロニケ1:3**

4. なぜクリスチャンにとって交わりは大切なのでしょうか？

4.1 教会においてクリスチャンの交わりは：

- A. 愛情をもって、互いに受け入れ合う - **ピリピ2:1-3**
- B. 愛し合い、重荷を負い合って支え合う関係
- **ガラテヤ5:6, 6:2**
- C. 互いに助け合う - **伝道4:9, 10, 12**、**ガラテヤ6:10**
- D. 信仰の成熟へと成長させる - **エペソ4:13-16**
- E. 効果的な祈りができる - **マタイ18:19-20**
- F. 励ましと教え合う - **コロサイ3:16**
- G. 家族の絆（きずな）を強める - **エペソ5:21-6:4**

4.2 この世において（つまりクリスチャンでない人々の中において）クリスチャンの交わりは：

- A. 私達がイエス様の弟子であることを示す - **ヨハネ13:34-35**
- B. 私達の一一致によって他の人々が神様がイエス様を遣わしたことを信じる - **ヨハネ17:21, 23**
- C. 宣教（文化を越えて福音を伝える）や福音伝道のはたらきを可能にする - **ローマ10:14-15**

5. キリストの体 - **ローマ12:1-8**

5.1 キリストの体の器官としての各個人の責任 - **ローマ12:1-3**

- A. 私達自身を生きた供え物として神に献げなさい
--**ローマ12:1**
- B. 心の一新によって自分を変えなさい -- **ローマ12:2**
- C. 思うべき限度を越えて思い上ってはいけません
--**ローマ12:3**

5.2 キリストの体を構成する器官としてのお互いの責任

- A. 互いに愛し合いなさい -- **ヨハネ13:34-35**
- B. 柔和な心で正し合いなさい…互いの重荷を負い合って
--**ガラテヤ6:1-2**
- C. 互いに忍び合い、許し合いなさい -- **コロサイ3:13**
- D. 互いに徳を高め合いなさい -- **Iテサロニケ5:11**
- E. 信仰を持ち続けるように励まし合いなさい…罪の惑わしから守られるように -- **ヘブル3:12-14**
- F. 互いに勧め合って愛と善行に励む…互いに励まし合いましょ
う -- **ヘブル10:24-25**
- G. 互いに罪を言い表し、互いに祈り合う -- **ヤコブ 5:16**

5.3 キリストの体の特徴 -- **ローマ12:4-8**

- A. 多くのメンバー（器官） --ローマ12:4-8
- B. 大勢のメンバーがいても体は、一つ
--ローマ12:5, 1、Iコリント12:20
- C. すべての器官は同じ働きをしない…それぞれの器官は異な
った働きがある--Iコリント12:7-11
- D. 一人一人が互いに器官なのです--ローマ12:5
- E. もし、メンバーの一人が苦しめば、すべてのメンバーも苦
しむ--Iコリント12:26

6. クリスチャンは神様と特別な関係を持ちます。

クリスチャンは：

- 6.1 神様の子ども--ヨハネ1:12であり、
神様の友達--ヨハネ15:15.
- 6.2 神様の相続人であり、
キリストとの共同相続人--ローマ8:17.
- 6.3 神様の家族の一員--エペソ2:19
- 6.4 信仰の家族--ガラテヤ6:10
- 6.5 イエス様の兄弟、姉妹--ヘブル2:11-14.

ホームワーク：

- Iヨハネ1:7を覚えましょう。
- Iコリント12章を読みましょう。11-31節を読んで、
キリストの体で特に目立つ特徴は何ですか？

ステップ10

キリストに従う

1. 人生の目標

- 1.1 キリストの姿に変えられる- ローマ8:29、Iヨハネ3:2.
- 1.2 キリストにある成人となる- コロサイ1:28.
- 1.3 実が残る人生- ヨハネ15:16

2. クリスチャンにとって従うとはどういうことですか？

2.1 キリストの戒めを守る- ヨハネ14:15

2.2 イエス様が命じられたことを行う- ヨハネ15:14

2.3 父なる神のみ心を行う- マタイ7:21

2.4 聖書に出てくる事例に従う：

- A. キリスト--ピリピ2:5-8
- B. 弟子たち--Iコリント11:1-パウロ
- C. 信仰の偉人--ヘブル12:1
(ただし、個々の具体例はブル11章)

2.5 神と隣人を愛しなさい

- A. 新しい戒め- イエス様が愛して下さったように愛す
- ヨハネ13:34-35
- B. 二つの重大な戒め- ルカ10:27
 - 1. 心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くし
てあなたの神である主を愛せよ。
 - 2. あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。

2.6 “自分を捨てて” …神を第一にする- ルカ9:23

2.7 二つの命令に従う：

- A. 福音伝道の命令- マタイ28:19-20
- B. 社会的な命令（神様の創造されたものを管理する）
--創世記1:26, 28-30.

3. 神様に従う人にどのようなものを神様は約束してくださいますか？

- 3.1 祝福- 申命記28:1-14、ヨシュア1:8
- 3.2 迫害と苦しみ- IIテモテ3:12、Iペテロ4:12-16.
アブラハムは従い、苦しみも受けました。
- 3.3 神様の友となる- ヨハネ15:14
- 3.4 神様によって愛される- ヨハネ14:21

4 従うことについて

- 4.1 従うことは宗教的慣習にまさる
- Iサムエル15:22、イザヤ1:11-17.
- 4.2 イエス様に従う時、障害となるものが出てきます。
(18ページのリストをもう一度見てみましょう)
- 4.3 イエス様は、命じられたことに直ちに、完全に従うことを求めておられます。
 - A. “なぜ、わたしを「主よ、主よ。」と呼びながら” ルカ6:46
 - B. “ふたりの主人に仕えることはできません。” ルカ16:13
- 4.4 神に従うことは心から起こされるものです- 箴言4:23、
詩篇119:10, 11この様に、‘従う’ことは、あなたの意志に関係があります。つまり今、あなた自らキリストに従うと決意することもできるのです。あなたのこの決断を実行にうつす力も与えると約束されています- ピリピ4:13
- 4.5 神様は信じる者が‘従うこと’ができるように助けて下さいませ
すピリピ1:6、2:13- 従う意思と力；マタイ11:28-30
- 4.6 ‘従う’ことは迫害や苦しみを受けることにもなります
- IIテモテ3:12、Iペテロ4:12-16、アブラハムは従い、
苦しみも受けました。

5.1 “ですから、立っていると思うものは、倒れないように気をつけなさい” - Iコリント10:12

5.2 誠実であることの大切さ- “神に誓願を立てるときには、それを果たすのを遅らせてはならない” - 伝道者の書5:4-5

5.3 小さな事がとても大切です- マタイ25:21、ヤコブ3:3-5、
雅歌2:15

(ノート：小ギツネがこっそりと入って、ぶどうの木の樹皮をかみ、その木を枯らしてしまう様に私達の心にも小さいと思える罪の数々が積もって、ついに私達を滅ぼしてしまいます。)

- 5.4 私達は永遠という視点から、物事を見なければなりません。
 - A. 時間はすぐにたって、夜が来ます- ヨハネ9:4
 - B. キリストはまもなく再び来られる- Iテサロニケ3:12-13.
“キリストの来られる時に責められるところのないようにしなさい。”

ホームワーク：ヨハネ14:21を覚えましょう。

□

5. 生涯を通して従わなければならない。

1. 期間の設定：あなたのパートナーと、まず、2～(多くても)4週間の間で定期的に会う約束をしましょう。その後、お互いの同意のもとに、延長することをお薦めします。
2. どのステップから始めるか決めましょう。：ステップ1か、又は、付録にある補足ステップ(聖書と神と人間)から始めるのが一般的ですが、状況(そのメンバー)によっては、順序にこだわらず、祈り、証し、のような項目(ステップ)から特別に選んで始めるのも良いでしょう。前もって準備をしましょう。
3. 毎週のミーティングは、祈りをもって始めましょう。
4. 資料は手元に用意しましょう。その日のステップのアウトライン、そのステップに出てくるみ言葉のカードや小冊子など…。
5. 場所の工夫：あなたのパートナーとミーティングのもちやすい場所を選びましょう。特に場所は問いませんが教会の事務室などより、時には気のおけない場所、喫茶店などで会うほうがリラックスできるかも知れません。又は、メンバーが複数で各自の家庭を喜んで開放して下さるなら、交替で違う家に集まるのも良いでしょう。
6. アウトラインは一回に一ステップずつ：一度に全部まとめてテキストを渡すより、一回一ステップずつの方が効果的です。それは又、テキストよりも互いの人間関係に焦点を合わせる事になります。特にクリスチャンになったばかりの人は資料が多いと圧倒されてしまいます。
7. 都合が悪くなった時に互いに連絡が取り合えるようにしておきましょう。(電話の連絡網等をあらかじめ決めるなど…)
8. できる限り、テーブルを囲んでミーティングをもちましょう。(聖書を読んだり、書いたりする時に便利です。)
9. 一回に費やす時間は一時間から一時間半にしましょう。
10. パートナーの話聞きましょう：良い関係をつくるために相手の言う事をよく聞くこと、話しやすいように質問をすることをお薦めします。
11. 女性は女性と、男性は男性と組みましょう。
12. メンバーが複数で欠席があった場合、他のメンバーに欠席者のフォローアップ(欠席したミーティングの内容を伝える等)をお願いするのも良い方法です。
13. 決めてかかるのはやめましょう(例えば、質問する前から、集まったメンバー全員がクリスチャンであると思いつまみないで下さい。)

- アウトラインのみ言葉が黙示3：20、ヨハネ1：12、ローマ10：9で始まっているのは、主イエスキリストを知ることから確認し合うためなのです。
14. 議論は避けましょう：パートナーとの関係を大切にしながら、相手又は、互いの成長のために聖霊様の導きを祈り求めて下さい。
 15. あなたのグループに合ったペースをつかみましょう。各ステップに挙げられている聖書の個所のすべてを読む必要はありません。あなたのグループの必要に応じたペース配分をして下さい。各々が、このテキストを論理的にだけでなく実生活にも適用できるように、時間を取りましょう。
 16. 教える側と教わる側という関係ばかりでなく友人としての関係も育てましょう。そのために一緒に何か社会活動(どこかに一緒に遊びにいたり、入院中の知人のお見舞いに一緒に出向いたり…)をするのも良いでしょう。
 17. (テキストの内容から日常生活に到るまで)問題があったら話し合いましょう。一緒に祈ってから実際の解決に導きましょう。もし、急を要する問題が起こったら、そちらを優先して扱い、その後、テキストを続けましょう。遠慮せずに尊敬するクリスチャンからアドバイスを受けましょう。
 18. あなた自身の霊的必要や個人的な問題を隠さないで分かち合しましょう。(誰でも持っています。)
 19. 時々、テキストの復習をしましょう。復習として、パートナーに前回のテキストで理解した事を説明してもらいましょう。一前回の欠席者があれば、この機会はフォローアップの良いチャンスにもなります。
 20. 忘れないで下さい。‘知成：ちせい’(知識の形成→知性)は必要ですが、あくまでも目標は、’信成：しんせい’ (キリストの弟子としての信仰形成→新生)です。
 21. ミーティングの中身をまとめると(以下の項目一順不同)：
 - 21.1 そのステップに出てくる、御言葉の個人的な適用(あなたのパートナーと分かち合ってください。)
 - 21.2 点検(宿題や暗唱聖句など)
 - 21.3 何か問題があったら、その問題に取り組みましょう。
 - 21.4 祈り
 - 21.5 (そのステップの)アウトラインの続きをしましょう。
 22. カードを配って、あなたのパートナーに暗唱聖句を書き取ってもらいましょう。(帰る道すがら覚えるのに便利です。)

- 23. その日のステップを終える時に、‘プログレスシート’やあなた独自の‘レッスンプラン’に記録して次回の計画を立てましょう
- 24. 忘れないで下さい。弟子訓練はあなたのパートナーが実際に活動し教え、導く働きに加わった時に大きな意味を持ちます。
- 25. ミーティングがあやふやな終わり方にならないようにしましょう。毎回、必ず、キチンと会を閉じましょう。‘ここまで出来た’ことを喜び合いましょう。

よく出る質問：

Q—私のやり方は正しいでしょうか？四ヶ月たってもまだステップ4です。‘脱線’（他の話）のしすぎかもしれません。

A—それで良いのです。（あなたは的を得たやり方をしています。）どの位の期間でテキストを終えなければならないという制限は全くありません。一年くらい費やす人が多いです。じっくり時間をかける人、短時間で進めていける人、様々ですがテキストのアウトラインにそっているからこそ‘脱線’が起こるのです。（互いの生活体験考えを分かち合うことによって）お互いに成長し合うのです。

Q—私たちは教会で弟子訓練をしています。続けていくために委員会をつくる（組織化する）べきでしょうか？

A—このテキストは、内容をやり遂げる事に焦点を置く（プログラム）のではなく、互いの人格を通して成長し合う関係づくりが焦点です：
 ちせい（知識の形成→知性）
 vs. しんせい（キリストの弟子としての信仰形成→新生）。しかし、信仰の励ましあいやキリストの弟子としてのビジョンを高めあうために、年一回の食事会や半期に一度の半日リトリート（修養会）をもつのは良い考えです。週報で定期的にお勧めをする事も大変良いことで、教会員全員がキリストの弟子として成長することに興味をもち続ける手助けにもなります。この種の活動では組織的行動は出来るだけ小さいほうが良いでしょう。

- 1. 聖書—私達の信仰、教理、おこないの権威です。
 - 1.1 聖書の起源（Ⅱテモテ3:16、Ⅱペテロ1:21）
 - 1.2 イエス様も御言葉を用いました—旧約聖書（ルカ24:27）
- 2. 聖書は神様がどんな方かを知らせてくれます：
 - 2.1 創造の神（創世1:1、使徒17:24-31）
 - 2.2 養って下さる神—
主は万物を保っておられる（ヘブル1:3、詩篇55:22）
 - 2.3 アルファ（初め）でありオメガである
（黙示1:8、21:6、22:13）
 - 2.4 「...“わたしはある”というものである。」
（出エジプト3:14、ヨハネ8:58）
 - 2.5 永遠の愛なる神（エレミヤ31:3）
 - 2.6 赦しの神であり和解の神
（ネヘミヤ9:17、エレミヤ31:33-34）
 - 2.7 神は霊である（ヨハネ4:24、Ⅱコリント3:17）
 - 2.8 三位一体の神（創世1:26-27、マタイ28:19、ヨハネ8:58、使徒5:3-5、Ⅱコリント3:17、13:14、Ⅰペテロ1:2、Ⅱペテロ1:1）
 - 2.9 正義（申命32:4）
- 3. 聖書は人間がどういう存在か’を知らせてくれます：
 - 3.1 神様によって創造されたユニークな存在（詩篇139:13-16）
 - 3.2 自分自身の選択の結果、さ迷い出ている。（イザヤ53:6）
 - 3.3 神様から離れた存在（イザヤ59:2）
 - 3.4 私達に選択の自由がゆだねられている（ローマ6:23）*賜物（贈り物）を受け取る、受け取らないは、私達の自由です。
- 4. 人間に対する神様の本来のご計画。（図#1）
 - 4.1 人間の創造に対する神様の思いは何ですか？（創世1:26-27）
 - 4.2 人間が罪を犯した時、人間に対しての神様のご計画は変わってしまいましたか？（ローマ8:29）

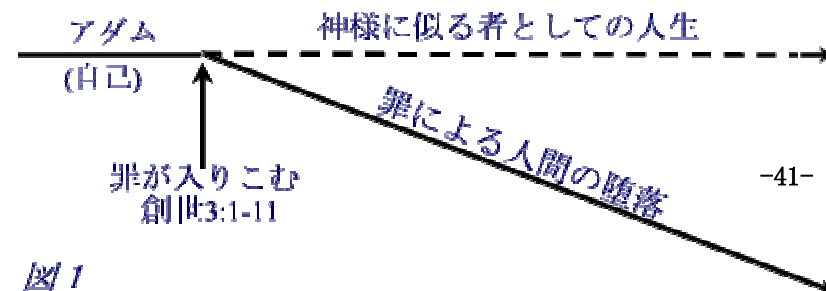


図1

5. 神様は人々にどのような希望を与えていますか？—
神様のご計画は今なお、進行中です。（図 # 2）

- 5.1 たとえ墮落した後でも神様の人間に対するご計画が変わっていないとしたら、このご計画を実行する為にどんな変更が必要になりますか（ヨハネ1:12-13、コロサイ2:13、3:9-10）？私達、人間の側にも変更があります。[これは‘失われた存在’から‘キリスト’に従う者へと変えられることです。]
- 5.2 キリストにあって生きるにはどうしたらいいでしょうか：

黙示3:20、ヨハネ1:12、ローマ10:9

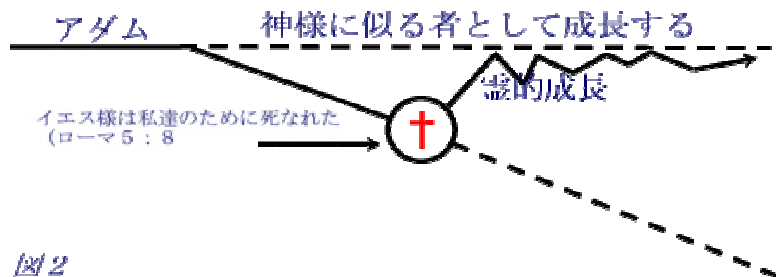


図2

6. キリストに従う者に対しての神様のご計画。

- 6.1 私達の内に、神様のひとり子であるイエス・キリストが形造られることが神様のご計画であり、将来においてもこのことに変更はありません。（ローマ8:29、ガラテヤ4:19、ヤコブ1:18、Iヨハネ3:2）
- 6.2 私達がキリストに似る者となるために。
- A. 誰もが人類の父、アダムのイメージを受け継いでいますが（つまり、すべての人が罪人）、神様の本来のご計画である‘天から出た者’（つまり、イエス様）のイメージをもつようになります。（Iコリント15:49）
- B. イエス様に注目し続けるならば、私達はみな‘栄光から栄光へと、主と同じかたちに変えられていきます’（IIコリント3:18、ローマ8:29）
- C. 将来、最終的には、私達はどのようなのでしょうか？（Iヨハネ3:2）

7. ‘救い’について、二つの理解

（地獄）を避けるための手段である

- A. しかし、上記のような人生観のどこに神様のご計画を実行したいという目的や成熟した大人になりたいという願望を持つことができるのでしょうか？
- B. 神様は人間の利益のためだけに存在していますか？それとも、人間が神様のために存在しているのでしょうか？（コロサイ1:15、エペソ1:5-6, 12）

7.2 聖書的な理解；救いとは、私達のイエス様との関係にあります。‘もはや私が生きているのではなく、キリストが私の内に生きておられるのです’（ガラテヤ2:20）：

- A. クリスマンに神様のイメージを持つ者としてありたいという望みを抱かせる（ローマ8:8-9、ピリピ2:13-15、IIコリント5:17）。
- B. 成長し、成熟した者になりたいという願望を抱かせる（ローマ8:9-14、ガラテヤ4:19）
- C. クリスマンが人生の困難に立ち向かえるよう助けてくれる（ピリピ4:12-13）。
- D. ‘良い行いをするためにキリストイエスにあって造られたのです’（エペソ2:10、テトス3:8）

8. クリスマンにとって、‘成熟する’とは？

- 8.1 パウロがテモテを弟子訓練する時に心に留めていたことは何ですか？（IIテモテ2:2）
- 8.2 弟子訓練を抜きにして、キリストに似る者として成長することができるのでしょうか？（Iペテロ2:2）
- 8.3 弟子訓練には、どのような良いところがありますか？（ローマ1:11, 12）
- 8.4 クリスマンとして成長し、成熟するとはどういうことですか？（エペソ4:13）
- 8.5 クリスマンの目標：
- A. キリストのようになる（ローマ8:29、IIコリント3:18）
- B. 忠実であること（Iコリント4:2）
- 8.6 私達の模範はどなたですか？（エペソ4:13）

ホームワーク：暗唱聖句 ローマ8:29

□

7.1 よくみかける、非聖書的な理解；救いとは、嫌な最後

橋のイラスト

神様は、個人的な関係を持つために人間を創造されました。しかし、罪のためにこの関係は壊れてしまいました。今、私達と神様との間は隔てられています。

1. 人間が実際に置かれている状態。
 - 1.1 すべての人は罪を犯しているー **ローマ3:23**
 - 1.2 罪から来る報酬ー **ローマ6:23**
 - 1.3 裁きがあるー **ヘブル9:27**

2. 神様はすべての人と良い関係を持ちたいと望んでおられます。
 - 2.1 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛されたー **ヨハネ3:16**
 - 2.2 イエス様が来たのは、人がいのちを得、またそれを豊かに持つためですー **ヨハネ10:10**
 - 2.3 神様の愛に値しない時から、神様は人間を愛して下さるー **ローマ5:8**

3. 人間は宗教、哲学、良い行いや快樂などを通して神様に近づこうとします。このことは、下記の図で途中で折れた橋として表されています。 **エペソ2:8-9、箴言14:12**

4. 神様への唯一の道ー私達の罪のために十字架で死なれたイエス・キリストを通してでなければ、だれひとり神様のもとに行くことはできませんー **ヨハネ14:6、Iペテロ3:18**

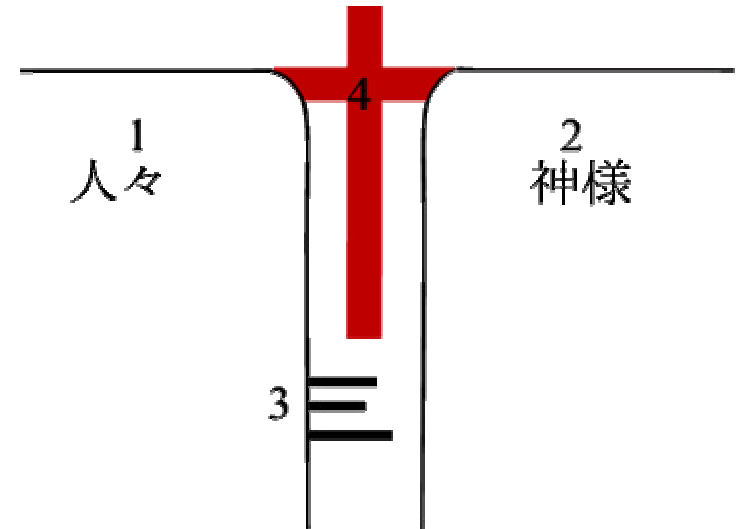
5. 私達はイエス様を主として、救い主として受け入れなければなりませんー **黙示3:20、ヨハネ1:12、ローマ10:9**

イエス様を受け入れるのに何か不都合がありますか？と、パートナーに尋ね、答えを待ちましょう。もしなければ、イエ

ス様を受け入れる祈りに導きましょう。その人自身の言葉で祈ってもらったり、或いは、あなたの後について祈りを繰り返してもらいましょう。

パートナーにホームワークとして、‘橋のイラストから学んだことについて’家でもう一度考えてくることをお願いするのもよいでしょう。ただし、あなたの関心はあくまで、パートナーが‘どの様に考えているか’にあることを確認しておいて下さい。パートナーがイエス様を自分の人生に招き入れたなら、霊的な成長をし始める手助けとして、ぜひ、ステップ1に進みましょう。

図の中の番号は抜きにして、この橋のイラストをその説明をしながら描いてみましょう。（図中の番号は、上記のリストに挙げたポイントの番号を示しています。説明できるように練習しましょう。）



{キリストの弟子訓練を始めるたびにこのシートをコピーしてご使用ください}

プログレス・シート (進行記録)
(弟子訓練をリードするために)

パートナー {あなたが弟子訓練する人 (たち) } の氏名 :

1 _____ 2 _____ 3 _____

25ページの補足ステップ: 聖書と神と人間

ページ 25 1. * 3. _____ 5. _____ 7. _____
2. _____ 4. _____ ページ 26 6. _____ 8. _____

ホームワーク: ローマ 8:29 **

ステップ1 - 救いの計画のひな型と四つの確信

ページ 11. _____ ホームワーク: 1ヨハネ5:11-12
2. _____ 黙示3:20 1コリント10:13
3. _____ ヨハネ 1:12 1ヨハネ1:9
ローマ10:9 ヨハネ 16:24

ステップ2 - キリストの弟子として

ページ 2 1.1 _____ 2 _____ 4.1 _____ IIテモテ 2:2
1.2 _____ 3. _____ 4.2 _____
1.3 _____ ページ 4 4. _____ 弟子訓練の特徴

*実際にチェックマーク(✓)を入れて進行の度合いを記録することは
どの位進んでいるか把握するのに役立ちます。
**はホームワークをマークする箇所です。ホームワークを出した時
、最初のをチェックし、そのホームワークができたなら次の
をチェックします。
☞(矢印)は注目して欲しい事柄を表しています。

[つづく➡]

ステップ3 - 車輪のイラスト(デモンジョン)

ページ 5 1. _____ デモンジョン
2. _____ ヨハネ 15:5
車輪のイラスト

ステップ4 -

主なるキリスト (キリスト中心) (あなたのパートナーは
他の人をキリストの弟子として訓練することを祈って
いますか?) ☞

ページ 6 1. _____ ページ 7 4. _____ 4.3 _____
2. _____ 4.1 _____ 4.4 _____ ビリビ 2:9-11
3. _____ 4.2 _____ 小冊子を読む

ステップ5 - 聖霊

ページ 9 1. _____ 5. _____ 8.2 _____ エペソ5:18
2. _____ 6. _____ 8.3 _____ ローマ 8:16
3. _____ 7. _____ 8.4 _____
ページ 10 4. _____ 8.1 _____ 小冊子を読み直す

パートナーがキリストの弟子として学び合いたいと思う人達の名前をリス
トにしましょう: ☞

_____, _____,
_____, _____

ステップ6 - 御言葉

(パートナーが他の人達とまだ弟子訓練を始め
ていなければそうできるように励ましましょう
) ☞

ページ 12
1. _____ 2.3 _____ ページ 13 3.5 _____ 聖書の各巻の名前
2.1 _____ 2.4 _____ 3.6 _____ 詩篇 119:9, 11
2.2 _____ 3. _____ 4. _____ 手のイラスト

クリスチャンの人生管理

1. 人生のすべての分野を管理するとは（或いは、神様のしもべとして責任を持つとは）‘すべて、この世界のものは、神様のもの’という私達の信仰を以下のリストのもので具体的に表すことです：

1.1 信頼-

私達が所有しているものすべてを与えて下さったのは神様です-- I コリント4:7, 10:26,
詩篇24:1, 115:16、申命記26:11

- 1.2 時間-時間をどの様に使うかは、私達にゆだねられています
--エペ 5:15-16

1.3 才能-

私達の能力や霊的な賜物は神様からのもので他の人のために使う--Iコリント12:7

1.4 感謝-

御前に出たときの神様への私達の応答は、感謝することです--詩篇95:2

1.5 ゴミ-

私達は‘地上のものを治める権利’を行使しなければなりません（創世記1:26）。ですから、自然を破壊せずどの様にゴミを処分するかは私達に責任があります
--詩篇24:1

1.6 チームワーク-

私達は、互いに協力し合って働きます。なぜなら、私達は一つの家族だからです--エペソ2:19

1.7 十一献金-

私達は神様から与えられているものを100%管理するように求められています。私達のためにそのひとり子を与えて下さった持ち主に10%（十一献金）お返しすることは、少なすぎるかもしれません。（与えられているものの豊かさを考える時）感謝として、1/10以上を捧げてもちっともおかしくないからです。マラキ3:10は、献金について考える良い出発点です-- I コリント4:1

1.8 証し-

私達の人生での神様の恵みや誠実さの体験を通して、他の人も神様が一人一人、個人的に関わって下さる存在であることを理解するようになります--
Iコリント4:1

2. 真に管理するならば：

- 2.1 恵みのわざに富む（積極的に捧げることができる）

--IIコリント8:7-8

- 2.2 働いて得たものから捧げる-- I コリント16:2

収入が、賃金や給与という形を取らない人は、土地から得た収穫物の1/10や家畜を売って得た収入の1/10という形で捧げることも認められていました。

A. どの様に捧げるべきでしょうか：

1. 参加している教会で定期的に捧げる-- I コリント16:1-2

2. 喜んで捧げる--IIコリント9:7

□

3. 宣教師への献金など、特別な働きのために捧げたいと思う人は、まず参加している教会に十一献金をしたのち、さらにその働きのために捧げることが勧められています

。

B. 捧げることの結果 IIコリント9:6-15：

1. あなたの必要が満たされます-8節
2. 惜しみなく与えられるようになります-11節
3. 神様に感謝せずにはいられません-11, 12節
4. 聖徒たちの必要が満たされます-12節
5. 神様があがめられ、ほめたたえられます-13節

ホームワーク：暗唱聖句IIコリント9:7

□

暗唱聖句一覧表

-51-

ナビゲーターの - 新・項目別暗唱聖句

-52-

ステップ1	救いの計画のひな型	黙示3:20 ヨハネ1:12 ローマ10:9
	4つの確信	Iヨハネ5:11, 12 Iコリント10:13 Iヨハネ1:9 ヨハネ16:24
ステップ2	弟子訓練	IIテモテ2:2
ステップ3	車輪	ヨハネ15:5
ステップ4	主なるキリスト	ピリピ2:9-11
ステップ5	聖霊	エペソ5:18 ローマ8:16
ステップ6	御言葉	聖書の各巻の名前 詩篇119:9, 11
ステップ7	祈り	ピリピ4:6-7
ステップ8	証し	Iヨハネ1:3
	救いの計画	ローマ3:23 黙示3:20 ローマ6:23 ヨハネ1:12 ローマ5:8 ローマ10:9 エペソ2:8-10, Iヨハネ5:11-12
ステップ9	交わり	Iヨハネ1:7
ステップ10	クリスチャンの従順	ヨハネ14:21
補足ステップの暗唱聖句:		
	聖書と神と人間	ローマ8:29
	人生管理	IIコリント9:7

A. 新しい命に生きる		
キリスト中心	IIコリント5:17	ガラテヤ2:20
キリストに従う	ローマ12:1	ヨハネ14:21
御言葉	IIテモテ3:16	ヨシュア1:8
祈り	ヨハネ15:7	ピリピ4:6-7
交わり	マタイ18:20	ヘブル10:24-25
証し	マタイ4:19	ローマ1:16
B. キリストを宣べ伝える		
すべての人が罪を犯した	ローマ3:23	イザヤ53:6
罪の報酬	ローマ6:23	ヘブル9:27
イエス様による身代わり	ローマ5:8	Iペテロ3:18
救いは行いによらない	エペソ2:8-9	テトス3:5
洗礼を受け入れなさい	ヨハネ1:12	黙示3:20
救いの確信	Iヨハネ5:13	ヨハネ5:24
C. 神様により頼む		
神の御霊	Iコリント3:16	Iコリント2:12
神様の強さ	イザヤ41:10	ピリピ4:13
神様の誠実さ	哀歌3:22-23	民数記23:19
神様の平安	イザヤ26:3	Iペテロ5:7
神様の恵み	ローマ8:32	ピリピ4:19
試みの時の助け	ヘブル2:18	詩篇119:9, 11
D. 洗礼の弟子となる		
洗礼を第一にする	マタイ6:33	ルカ9:23
この世と妥協しない	Iヨハネ2:15-16	ローマ12:2
堅く立ちなさい	Iコリント15:58	ヘブル12:3
他の人に仕える	マルコ10:45	IIコリント4:5
豊かに捧げる	箴言3:9-10	IIコリント9:6
世界に伝える	使徒1:8	マタイ28:19-20
E. キリストを模範として成長する		
愛	ヨハネ13:34-35	Iヨハネ3:18
謙遜	ピリピ2:3-4	Iペテロ5:5-6
聖さ	エペソ5:3	Iペテロ2:11
誠実	レビ19:11	使徒24:16
信仰	ヘブル11:6	ローマ4:20-21
良い行い	ガラテヤ6:9-10	マタイ5:16

さて、あなたは、10ステップをひと通り終えました。聖書についての理解をさらに強固なものとするために各章ごとに学ぶ聖研へと進みましょう。聖研とは、‘聖書研究’の略語で聖書をテキストとして、書かれてある御言葉から学ぶことを意味します。

聖書を研究する

この聖研では、前もって自分で聖書を研究するという個人、個人の準備が前提となっています。1週間ごとに1章ずつ、最後のステップ10を終えたら、ぜひ、やってみましょう。

もし、可能ならば数名の弟子（あなたと10ステップの学びを終えたパートナー）をメンバーとして、少人数のグループでこの聖研を始めましょう。グループでの聖研にかかる時間は、1時間～1時間半ぐらいが適当です。司会（その日の聖研を進めていく係り）は、毎回、交替でしましょう。Ⅱテモテのような短い牧会書簡から取りかかるのが良いと判断する人が多いことと思います。一少ない章からなる短い巻は、取りかかりとして丁度良い分量だからです。個人としての準備には、集中すれば1時間ぐらいで終えることも可能です。

この聖研の手引きとなる質問は単純明快です：

1. （その週に研究する章の）簡条書き又は、要約。その章の内容を（番号などをつけて）簡条書きにする方が理解しやすいという人もいれば要約するほうがいいという人もいらっしゃるでしょう。要約ならば、1節につき、5文字程度に抑えましょう。簡条書きでも要約でも左の余白欄に節の番号（何節か）を書き記してください。あとグループとで調べる時に便利です。必要であれば、裏のページも使いましょう。
2. **タイトル。**簡条書きや要約をする前にその章のタイトルをあなたなりに考えてつけてみましょう。
3. 各節について比較又は、対照する。ここでは、少し背伸びしてあなたの視野を広げてみましょう。ここでの目標は、欄外注や他のどんな参考文献からの助けも借りずにできるだけ多くの相互参照（対照/比較できる節）を見つけ出すことです。慣れないうちは、これは難しいので15分間だけ取り組むことにしましょう。自分の聖書を開いて、かろうじて記憶に留めているものを調べていくことは、多くを学ぶ過程でもあります。

4. **問題。**あなたが理解できない箇所やクリスチャンになって間もない人が理解しづらそうな箇所を書き出しましょう。左の余白に節の番号も書き留めてください。特に問題のない人は、他の人が答えを見つけるのを手伝ってあげましょう。
5. **個人の適用。**この聖研で唯一最も重要な項目です。ここで、御言葉を求めていく時にいかに主が私達に個人的に答えてくださるか、具体的にわかるからです。あなた自身、あなたの人生、必要、状況、神様からの励まし、導き、なぐさめ、神様に従うという召し（神様からの招き）、これらが明らかに表されます。

Blank PAGER HOLDER TOP

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank

Blank End PAGE HOLDER BOTTOM